

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	芸術Ⅱ（音楽）（2C）	
科目基礎情報							
科目番号	0042		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（人文科学系）		対象学年		2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書:『MOUSA I』 小原光一 教育芸術社						
担当教員	小林 貢,廣田 俊介						
到達目標							
1. さまざまな表現の機会を通して自分らしさを表現することができるようになること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		アンサンブル（歌唱・器楽）活動をする中で、自分（達）らしさを表現した音楽づくりが十分にできる。		アンサンブル（歌唱・器楽）活動をする中で、自分（達）らしさを表現した音楽づくりがある程度できる。		アンサンブル（歌唱・器楽）活動をする中で、自分（達）らしさを表現した音楽づくりができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		創造的表現活動および鑑賞を通して、音楽を愛好する心情を育てる。					
授業の進め方・方法		個人、小グループ、全体とさまざまな学習形態で、自分らしさを主張しながら創造的表現ができるようになることに重点を置いて進める。					
注意点		〔評価方法〕ミニコンサート70%、学習カードと普段の学習態度など30%、として評価する。 〔認証評価関連科目〕芸術Ⅰ（音楽） 〔学習上の注意〕（授業を受ける前）アルトリコーダーと教科書、筆記用具は常備すること。 （授業を受けた後）					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		3週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		4週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		5週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		6週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		7週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		8週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
	2ndQ	9週	鑑賞		古典から現代までの音楽を学ぶ。		
		10週	鑑賞		作曲家とその時代背景を学ぶ。		
		11週	鑑賞		音楽をより深く味わうことができる。		
		12週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		13週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		14週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		15週	まとめ		本授業のまとめ 授業アンケート		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3		
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3		
				目標の実現に向けて計画ができる。	3		
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3		
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3		
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3		
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3		
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3		
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3		
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3		
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3		
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3		
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3		
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3		
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3		

			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0